

2018年（平成30年） 11月9日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

10/25~10/31のNYMEX・WTIは、65.31~67.59ドルの範囲で推移した。

11月1日は、前日のEIA発表で、米国原油在庫が6週連続の増加で約4ヵ月半ぶりの高水準となったこと、米国の9月原油生産が日量1130万バレルと史上最高を記録したこと、さらに、イラン産原油の輸入禁止の適用除外が検討されていることから、需給緩和感が強まり、4営業日大幅続落した。12月限終値は前日比1.62ドル安の63.69ドルだった。

週末2日は、5日のイラン制裁再開期限が迫る中、日韓印等8カ国についてイラン原油輸入停止の適用猶予が講じられると報じられ、イラン産原油の生産が直ぐには減らないとの認識が広がり続落した。ペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は874基（前週比1基減）と4週ぶりに減少した。12月限終値は前日比0.55ドル安の63.14ドル。

週明け5日は、安値拾いの買いが先行したものの、屋前、米国が8カ国（日・韓・中・印・台・トルコ・伊・ギリシャ）に対しイラン原油輸入禁止措置の一時適用除外を発表、トランプ大統領は「原油相場を押し上げたくないのでゆっくりやって行きたい」と発言したことで売り戻され、わずかに続落した。12月限終値は前週末比0.04ドル安の63.10ドル。

6日は、前日の米国政府の発表を受け、イラン原油の供給懸念が後退したことから、7営業日続落した。12月限終値は前日比0.89ドル安の62.21ドル。

7日は、想定内の中間選挙結果やOPEC・非OPECの協調減産強化の動きから、買い先行で始まったものの、EIA米国

在庫週報で、原油の7週連続の積み増し報告で売られ、8営業日続落、8ヶ月ぶりの安値を付けた。12月限終値は前日比0.54ドル安の61.67ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（12月渡し）は、前週74.60~76.20ドルの範囲で推移した。11月1日73.20ドル、2日72.00ドル、5日71.30ドル、6日71.40ドル、7日70.80ドルで推移した。

為替は、前週111.96~113.26円の範囲で推移した。11月1日112.79円、2日112.87円、5日113.23円、6日113.23円、7日113.15ドルで推移した。

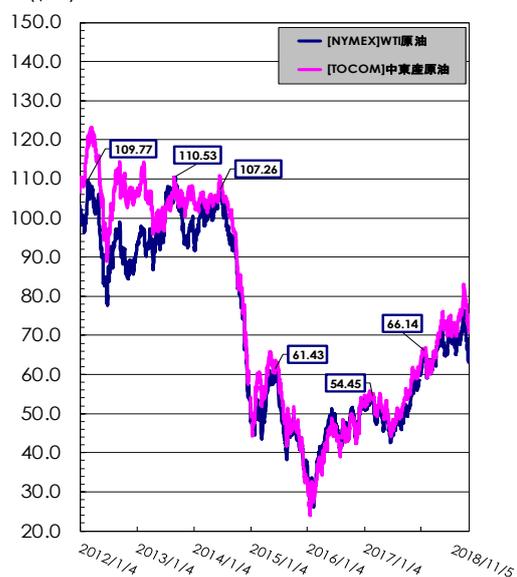
財務省が7日発表した貿易統計（速報・旬間）によると、10月中旬の原油輸入平均CIF価格は、57,334円/klで、前旬比2,963円高、ドル建ては80.16ドルで前旬比3.38ドル高。為替レートは1ドル/113.71円だった。

主要元売会社の11月第1週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに2.0~2.5円の値下げとなった。原油価格は大きく値下がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油調達コストは大きく値下がりとなった。

そのような中で、11月5日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.9円の値下がり、軽油も同0.7円の値下がり、灯油も同5円の値下がり（18%ベース）だった。ガソリン、軽油、灯油ともに、2週連続の値下がりだった。この週（10月第5週）の原油コストは値下がりし、元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社1.5円の値下げだった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/28 ~ 11/3	3,104 ▼ -29	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	79.3 ▼ -0.7	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	11/3	12,674 ▼ -561	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	11/5	70.68 ▼ -4.26	▲ 10.7
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	11/5	63.10 ▼ -3.94	▲ 5.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月中旬	80.16 ▲ 3.38	▲ 25.35
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	57,334 ▲ 2,963	▲ 18,586
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.71 ▼ -1.11	▼ -1.31
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/5	114.23 ▼ -1.27	▲ 1.15

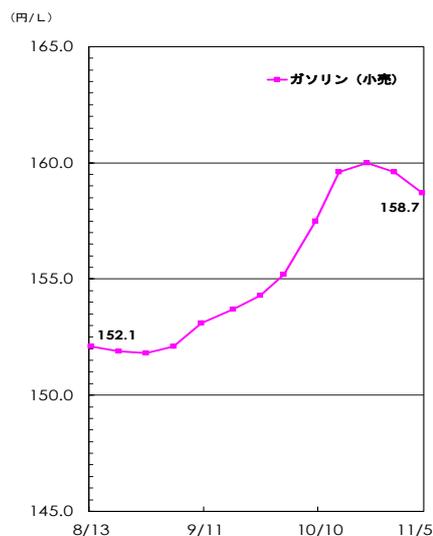
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/28 ~ 11/3	916 ▲ 4	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	846 ▼ -7	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -12	▼ -	
	在庫	11/3	1,720 ▲ 71	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/30 ~ 11/5	69.8 ▼ -2.2	▲ 13.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/30 ~ 11/5	63.7 ▼ -2.1	▲ 6.5
		(TOCOM/中部)	11/5	63.5 ▼ -3.0	▲ 5.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/5	158.7 ▼ -0.9	▲ 22.2	

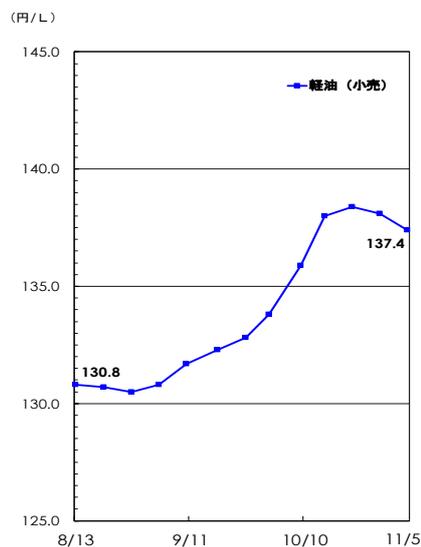
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

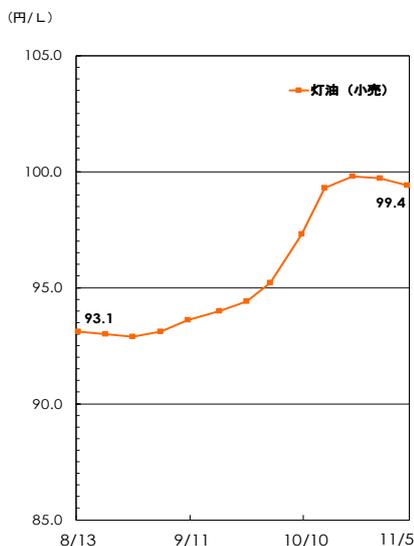
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/28 ~ 11/3	666 ▼ -100	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	623 ▼ -24	▲ -	
	輸出	"	48 ▼ -43	▼ -	
	在庫	11/3	1,455 ▼ -6	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/30 ~ 11/5	71.9 ▼ -2.3	▲ 16.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/30 ~ 11/5	72.3 ▼ -0.9	▲ 19.3
		(TOCOM/中部)	11/5	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/5	137.4 ▼ -0.7	▲ 22.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/28 ~ 11/3	229 ▼ -24	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	138 ▼ -59	▼ -	
	輸出	"	0 → 0	→ -	
	在庫	11/3	2,714 ▲ 91	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/30 ~ 11/5	71.1 ▼ -2.1	▲ 13.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/30 ~ 11/5	68.9 ▼ -2.7	▲ 10.8
		(TOCOM/中部)	11/5	68.0 ▼ -4.0	▲ 8.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/5	99.4 ▼ -0.3	▲ 20.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

11月7日のNYMEX市場WTI原油は、米国中間選挙結果が想定内で米株式も回復したこと、さらに、ロシアとサウジが来年の協調減産強化に向け協議を開始したことから、買いが先行して始まったものの、米国エネルギー情報局(EIA)週報で、国内原油在庫が前週比580万バレル増と、市場予想(同240万バレル増)を大きく上回り、7週連続の積み増し、ガソリンも予想を上回る積み増しとなったこと、さらに、前週の産油量も日量1160万バレルと過去最大となったことから売られ、8営業日続落、3月15日以来の安値を記録した。12月限終値は前日比0.54ドル安の61.67ドル、1月限の終

値は前日比0.52ドル安の61.82ドルだった。

EIAによると、11月5日時点のガソリンの小売価格は、前週比5.8セント値下がりの1ガロン2.753ドル(83.0円/ℓ)、ディーゼルは前週比1.7セント値下がりの3.338ドル(100.6円/ℓ)となった。ガソリンは4週連続の値下がり、ディーゼルは3週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年10月28日～11月3日に休止したトッパー能力は42.4万バレル/日で、前週に対して3.1万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は310.4万klと、前週に比べ2.9万kl減少。前年に対しては31.5万klの減少。トッパー稼働率は79.3%と前週に対して0.7ポイントの減少、前年に対しては8.0ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/0.4%増、ジェット/14.6%減、灯油/9.4%減、軽油/13.1%減、A重油/3.5%減、C重油/29.6%増。今週のC重油の輸入は0.2万kl(前週比0.3万kl減)。軽油の輸出は4.8万kl(前週比4.3万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではA重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではジェット、軽油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は84.6万 kl(対前週0.8%減)と前週比で2週振りで減少となり、9週連続で100万klを下回った。ジェット8.0万kl(対前週15.7%減)、灯油13.8万kl(対前週29.8%

減)、軽油62.3万kl(対前週3.7%減)、A重油19.8万kl(対前週6.2%増)、C重油15.4万kl(対前週32.8%減)。

(単位:千kl)

	今週 (10/28 ~ 11/3)	前週 (10/21 ~ 10/27)	前週比	
ガソリン	846	853	▼ -7	(-1%)
ジェット燃料	80	94	▼ -14	(-15%)
灯油	138	197	▼ -59	(-30%)
軽油	623	647	▼ -24	(-4%)
A重油	198	186	▲ 12	(6%)
C重油	154	229	▼ -75	(-33%)
合計	2,039	2,206	▼ -167	(-8%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月3日時点の在庫は、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは172.0万kl、前週差7.1万kl増。前年に対しては13.5万kl多い。

灯油は271.4万kl、前週差9.1万kl増。前年に対しては14.3万kl多い。

軽油は145.5万kl、前週差0.6万kl減。前年に対しては6.3万kl多い。

A重油は76.0万kl、前週差2.8万kl増。前年に対しては5.9万kl多い。

C重油は201.3万kl、前週差1.4万kl増。前年に対しては4.6万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (11/3)	前週 (10/27)	前週比	
ガソリン	1,720	1,649	▲ 71	(4%)
ジェット燃料	892	859	▲ 33	(4%)
灯油	2,714	2,623	▲ 91	(3%)
軽油	1,455	1,461	▼ -6	(-0%)
A重油	760	732	▲ 28	(4%)
C重油	2,013	1,999	▲ 14	(1%)
合計	9,554	9,323	▲ 231	(2.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月30日から11月5日の原油価格は、引き続き、前週対比で大きく値下がりし、為替レートはやや円安で、原油コストは大きく値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、同期間、ガソリン121～125円台で大きく値下がり、軽油70～73円台で大きく値下がり、灯油69～72円台で大きく値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン125～126円台で値下がり、軽油73～74円台で値下がり後横ばい、灯油66

～70円台で大きく値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン115～119円台で大きく値下がり、軽油71～73円台で値下がり、灯油66～70円台で大きく値下がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリンは全社1.5円の値下げ、軽油と灯油は1.0～1.5円の値下げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、前週に続き、全油種・全取引で大きく値下がりした。

11月第2週(11月8日～11月14日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(10月30日～11月5日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは2.2円の値下がり、灯油も2.1円の値下がり、軽油も2.3円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.1円の値下がり、灯油も2.4円の値下がり、軽油は1.9円の値下がりだった。

先物価格は、ガソリンが2.1円の値下がり、灯油も2.7円の値下がり、軽油も0.9円の値下がりだった。

原油価格は大きく値下がりし、為替はやや円安で、原油コストは大きく値下がりした。

11月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリンは全社1.5円の値下げ、軽油と灯油は1.0～1.5円の値下げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸売価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/ℓ)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (10/30 ~ 11/5)	前週 (10/23 ~ 10/29)	前週比
レギュラー	69.8	72.0	▼ -2.2
灯油	71.1	73.2	▼ -2.1
軽油	71.9	74.2	▼ -2.3

(TOCOM) (単位: 円/ℓ)

先物価格 [期近物/終値] [平均]	今週 (10/30 ~ 11/5)	前週 (10/23 ~ 10/29)	前週比
レギュラー	63.7	65.8	▼ -2.1
灯油	68.9	71.6	▼ -2.7
軽油	72.3	73.2	▼ -0.9

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/30～11/5実績値) (単位: 円/ℓ)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -2.2	▼ -2.1	▼ -2.1
灯油	▼ -2.1	▼ -2.7	▼ -2.4
軽油	▼ -2.3	▼ -0.9	▼ -1.6
A重油	▼ -2.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月5日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.9円安の158.7円、軽油も同0.7円安の137.4円、灯油は同0.3円安の99.4円(18ℓベースでは5円安の1,789円)だった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油も2週連続の値下がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは2県、横ばいは1県で、値下がり44都道府県だった。全国最安値は埼玉県の154.0円(前週比1.1円安)、次が石川県の154.5円(同2.1円安)、最高値は長崎県の169.4円(同0.9円高)であった。最も値上がりしたのは2.7円高の高知県

(161.8円)、横ばいは大分県(165.6円)、最も値下がりしたのは2.6円安の鳥取県(155.3円)だった。

先週の原油コストは大きく値下がりし、元売の卸価格は、ガソリンは1.5円の値下げ、軽油と灯油は、1.0～1.5円の値下げに分かれた。今週は、原油価格が大きく値下がりし、為替レートの円安がこれを一部相殺したが、原油コストは大きく値下がりした。次週(11月12日)のガソリン・灯油の小売価格は、値下がり予想される。

(単位: 円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/5)	前週 (10/29)	前週比	直近高値
レギュラー	158.7	159.6	▼ -0.9	08/8/4 185.1
灯油	99.4	99.7	▼ -0.3	08/8/11 132.1
軽油	137.4	138.1	▼ -0.7	08/8/4 167.4

小売価格

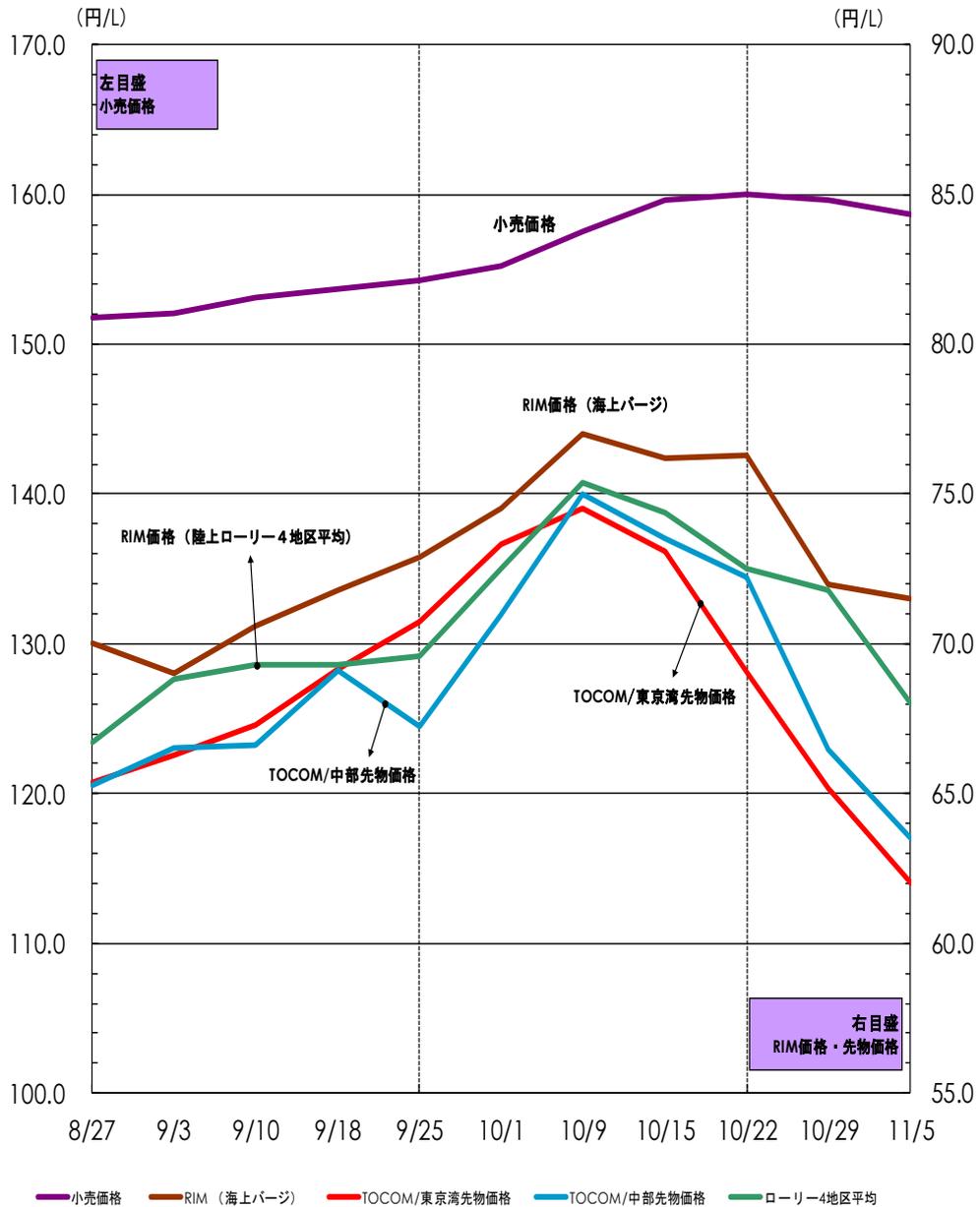
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/8/27 ~ 2018/11/5)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第31号)の公表は、11/16(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年3月末現在)は、7月31日(火)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。